

京都府豊かな森を育てる府民税事業成果

府民税 使途分野	I 森林の整備及び保全 II 森林資源の循環利用 III 森林の重要性の啓発
事業名	IV 地域振興計画推進事業
事業概要	<p>1 目的</p> <p>地域の森林・林業の特色や課題に応じた広域振興局ならではの先導的な取組を推進する。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 山城広域振興局</p> <p>①モデルフォレスト運動参画促進事業 多様な主体による森林保全の取組を推進し、京都モデルフォレスト運動に参画する企業と緑の少年団との交流会を開催</p> <p>②山城産の木魅力発信事業 山城産木材の利用促進のため、府民を対象に林業体験や木工体験ができる森林・林業体感ツアーの開催。市町村職員等を対象に木材の利用を進める研修会を開催。山城地域で生産され、製材・加工された木製品を宇治庁舎に整備</p> <p>(2) 南丹広域振興局</p> <p>①「竹コミュニティ」推進事業 放置竹林を整備し、良質なマダケを安定供給するコミュニティ・ビジネスを確立することで、地域の「環境維持」を図るとともに、「林業労働者の冬季・悪天候時の仕事を創出し」、「林業労働者の就労条件改善」に繋げるため、林業労働者による竹林整備・搬出を実施・検証</p> <p>(2) (3) 南丹広域振興局、中丹広域振興局（共同で実施）</p> <p>①「丹波くり」振興未来創造事業 里山林等の適正な管理を推進し、京のブランド産品「丹波くり」の生産を拡大するため、「丹波くり」栽培をリードする中核的生産者の育成を図る「丹波くりマイスター養成講座」の修了生を対象に、更なる技術力と指導力のレベルアップを図るため、先進地の視察やくり生産者への指導実習を実施</p> <p>(3) 中丹広域振興局</p> <p>①府内産木材需要拡大事業 子育て世代や子どもをターゲットとした木材をPRするイベント「もくフェスin中丹」を実施し、木材利用の気運を醸成し、住宅、家具、玩具等への木材利用を通じて府内産木材の需要を拡大</p> <p>②循環型林業未来創造事業 森林組合に主伐・再造林一貫作業を実施してもらい、その工程調査を実施 また、主伐再造林の現地検討会を開催</p> <p>(4) 丹後広域振興局</p> <p>①丹後魅力の森を育む担い手づくり事業 森林整備の担い手づくりや人材確保のため、森林への関心と愛着を持たせる取組みを実施するとともに、丹後の森の魅力を発信し集客につなげる施設を整備</p>

3 事業実績（R5年度）

事業区分	事業費	主な内容
(1) 山城広域振興局	2,500千円	<ul style="list-style-type: none"> モデルフォレスト参画企業と緑の少年団の交流会 1回（51名） 森林・林業体感ツアーの開催等 3回（73名）
(2) 南丹広域振興局	2,350千円	<ul style="list-style-type: none"> くり先進地の視察 2回（中丹と共同） 林業労働者による竹林整備・竹材搬出
(3) 中丹広域振興局	2,500千円	<ul style="list-style-type: none"> くり先進地の視察 2回（南丹と共同） もくフェスin中丹の実施 1回（約2500人） 主伐再造林に係る工程調査及び現地検討会の開催 4箇所
(4) 丹後広域振興局	2,500千円	<ul style="list-style-type: none"> 適正な森林管理を学ぶセミナー開催 2回（49名） 地域産木材の魅力発信及び地元高校生等への研修会を開催 4回（2,764名）



MF運動参画企業と緑の少年団との交流
（山城広域振興局）



森林・林業体感ツアー（京都大学材鑑調査室見学）
（山城広域振興局）



枯損竹伐採・林内整理実施状況
（南丹広域振興局）



丹波くりマイスター養成講座修了生技術向上研修
（南丹・中丹広域振興局）



主伐・再造林現地検討会
(中丹広域振興局)



もくフェス in 中丹
(中丹広域振興局)



森林適正管理セミナー実習
(丹後広域振興局)



丹後WOOD FESTIVAL
(丹後広域振興局)

1 全体の評価

地域の森林・林業の特色や課題に応じた広域振興局ならではの先導的な取組を実施することができた。本取組により森林保全や木材利用に対する府民の理解を深め、多様な主体の協働による森林保全の取組を推進するとともに、特用林産物の生産振興の基盤を構築することができた。

2 各広域振興局の評価

○山城局

①モデルフォレスト運動参画促進事業

参加した子どもの声：

- ・ノコギリで木を切るのが楽しかった。
- ・植物の話がたくさん聞いて良かった。

→ 森林・林業に興味や親しみを持ってもらうことができた。

②山城産の木魅力発信事業

森林・林業体感ツアー

参加者の声：

- ・今の林業の現状がよくわかった。何とかしていくのにどうすればよいか考えさせられた。
- ・歴史的な（木と）人とのつながりを改めて思い返すことができた。

→ 森林の大切さや木材利用への関心を深めることができた。

山城産木材の利用を進める研修会

参加した市町村職員の声：

- ・木材の温かみを感じることができ、木材利用を進めていく上で、まず木材と向き合える機会を増やすことが大切であると実感した。
- ・今後町内で公共施設等の建設事業がある際は山城産木材の利用等使用に盛り込んでもらえるよう、役場内で情報共有を図りたい。

今後も取組を継続することにより、モデルフォレスト運動参画企業とも連携を図り、森林整備や地域産材利用の意義の周知・啓発を図る。

自己評価

	<p>○南丹局</p> <p>①「竹コミュニティ」推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業事業体による竹林整備・竹材搬出を実施し、「作業効率」「作業技術」「採算性」を確認 <p>○南丹局、中丹局</p> <p>①「丹波くり」振興未来創造事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9名の中核的生産者に対して、現地視察や指導実習を通じて技術力を向上 ・修了生のネットワークを強化 ・今後も本事業を継続し、各地域に生産技術の要となる人材を育成 <p>○中丹局</p> <p>①府内産木材需要拡大事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者に木材の良さ等を実感してもらうことができた。(アンケート結果) <p>②循環型林業未来創造事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合等に主伐再造林への積極的な検討を促すことができた。(R5主伐再造林実績4箇所) <p><u>今後も本事業を継続し、各地域に生産技術の要となる人材を育成する。また、調査結果の詳細を把握・分析することにより長期の視点にたった振興計画を作成し、戦略的・計画的な振興を図る。</u></p> <p>○丹後局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林適正管理セミナーや林業木材研修会、木工体験会など開催し、森林への関心を高められた。 ・地域住民や地元高校生等、多様な主体の協働により森林の利用と保全活動を推進した。 ・丹後縦貫林道を活用するために利用者の要望に沿った案内看板の補強やオブジェを設置した。 <p>→ <u>セミナーや研修会など、人数を限定して開催しているため、今後はWEB開催等広く周知できる方法も検討が必要である。</u></p> <p>→ <u>人材不足に対応したICT機器の研修会等の開催要望への対応が必要である。</u></p> <p><u>今後も森林・林業・木材産業・建築業に関わる地域での取組を支援して、森林・林業や木材利用への関心を高める取組を継続し、森林や木に携わる人材の育成に繋げる。</u></p> <p>3 今後の事業の方向性</p> <p>各地域の特色や広域的な課題に取り組んでおり、引き続き効果的な事業を継続していく。今後は、地域課題の解決に向けた取組をより重点的に進める。</p>
<p>評価委員 会の意見</p>	<p>・イベントの参加者からは高い評価をもらっており、このまま続けることが妥当</p>